

「高齢者アンケート」集計結果

1 アンケート実施方法

(1) 調査方法 配布：郵送

回答：地域包括ケア推進課に郵送若しくは持参又はLINEによる回答

(2) 調査期間 令和6年8月9日（金）から同月30日（金）まで

2 アンケート対象数

令和6年4月1日時点で介護認定を受けていない75歳以上の高齢者 13,328人

3 回答状況

9,066人（締切後含：9,518人）

内訳）アンケート用紙による回答：8,852人（締切後：452人）

LINEによる回答：214人（重複回答1件を除く。）

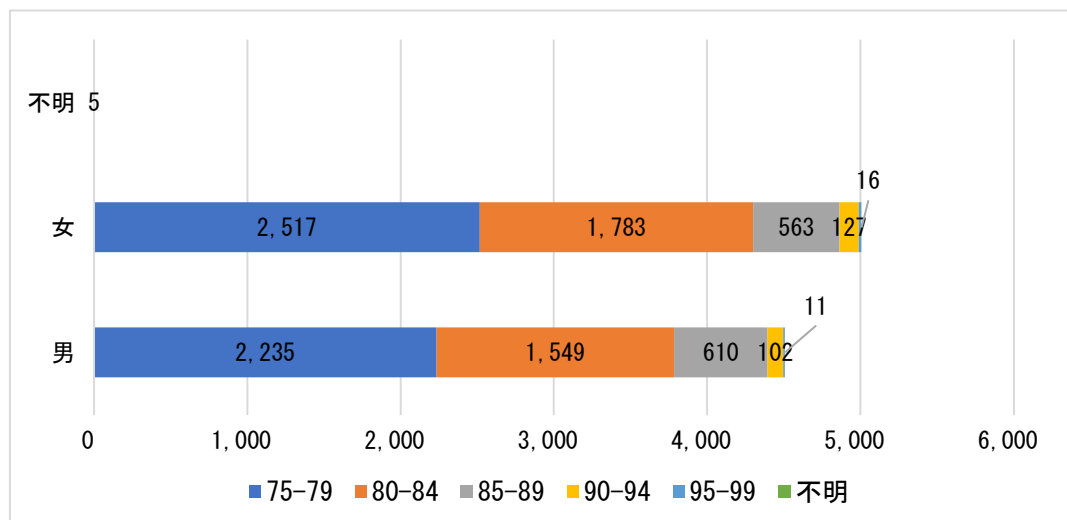
4 回答率

68.02 パーセント（締切後含：71.41 パーセント）

5 アンケート結果

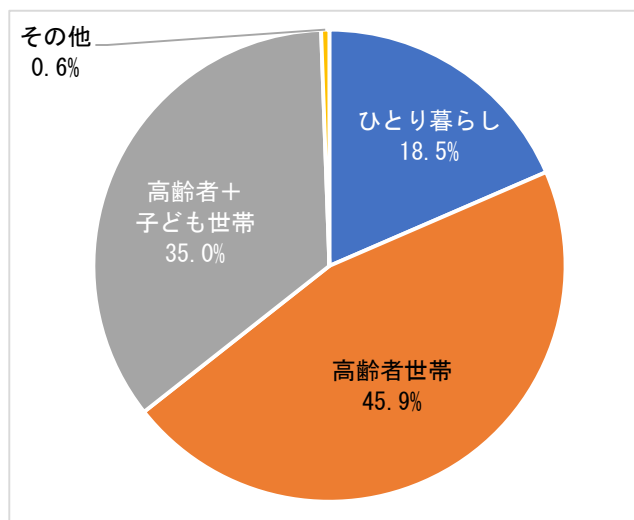
別添のとおり

○回答者の性別・年代別人数



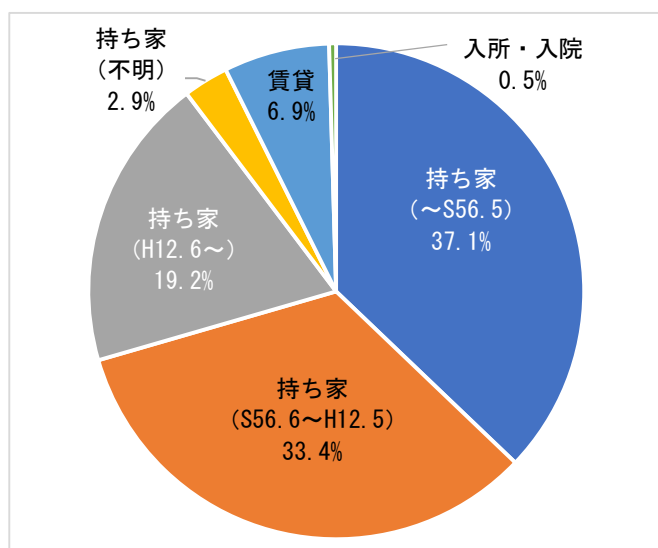
【Ⅰ 生活状況について】

問1 現在の生活状況について



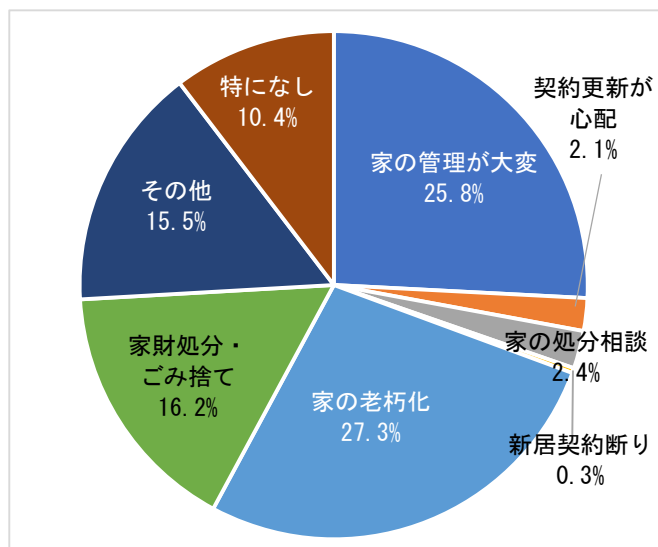
有効回答数	無回答数	総数
9,333	185	9,518

問2 現在の住まいの状況について



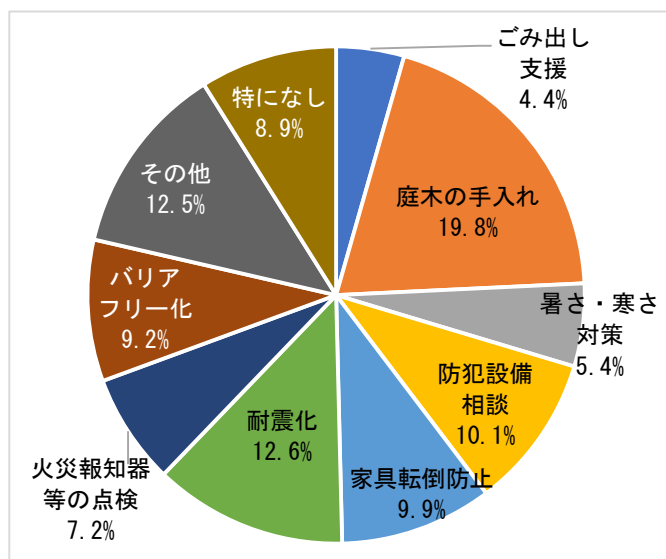
有効回答数	無回答数	総数
9,297	221	9,518

問3 現在のお住まいについての困りごと（複数回答可）



有効回答数	無回答数	総数
6,869	2,649	9,518

問4 お住まいのことで求めている支援（複数回答可）



有効回答数	無回答数	総数
6,625	2,893	9,518

＜Ⅰ 生活状況における結果と今後の方針＞

- 回答者の約9割が持ち家に居住しており、困りごとの上位は、「家の老朽化」「家の管理が大変」であった。このことから家の老朽化や管理に関する不安を解消するための周知や施策を検討する必要がある。
例として災害への備えとしての地震保険の知識や、持ち家の処分方法等に関する啓発等の実施を検討する。
- 求める支援として最も多かった庭木の手入れを含め、住まいに関する困りごとを総合的に相談できる窓口の設置を検討する。
- 暑さ・寒さ対策について支援を求めている方は全体の5.4%にとどまっている。まだ、高断熱の住宅の普及が進んでいないことを踏まえると、暑さ・寒さ対策への意識の低さが確認できた。令和7年度から既存住宅の高断熱化を支援する補助制度の開始を予定している。併せて、セミナーの開催等による意識啓発に取り組んでいきたい。

ピックアップ！「耐震化」

問１と問２からみた「旧耐震基準（～S56.5）の持ち家に住む世帯状況」

ひとり暮らし	高齢者世帯	高齢者＋子ども世帯	無回答
17.7%	50.1%	30.8%	1.4%

問２からみた「持ち家の内訳」

持ち家 合計 92.6%

持ち家（～S56.5）	持ち家（S56.6～H12.5）	持ち家（H12.6～）	持ち家（不明）
40.1%	36.0%	20.7%	3.2%

報道発表によれば、能登半島地震による建物の被害状況に関する中間報告書において、S56年以前の旧耐震基準で造られた木造建築物は19.4%が倒壊、S56の新基準でH12年までに造られた建物の倒壊は5.4%、それ以降の建物の倒壊は5.4%にとどまった。

本市においても、旧耐震基準の家屋での、ひとり暮らし高齢者は、17.7%、高齢者世帯は50.1%であり、地震発生の時間帯によっては、多くの被害が発生する可能性がある。

問３の「お住まいについての困りごと」で家の老朽化27.3%、問４「住まいのことで求めている支援」で耐震化12.6%とされているが、能登半島でもあったように行政支援があったとしても高齢者世帯やひとり暮らし高齢者が耐震改修工事に踏み切るとはほぼない状況である。

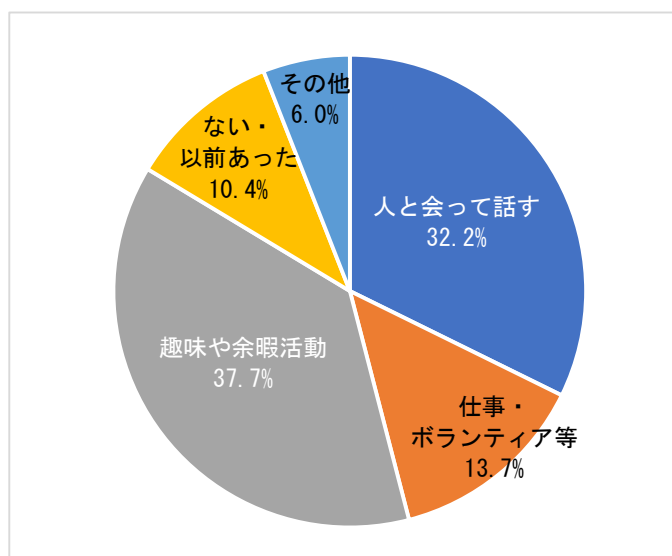
家屋の耐震改修工事を推奨することは継続しつつも、耐震工事以外の防災ベッド・耐震シェルター※などの整備や、２階以上の家屋は寝室を２階以上にするなど、家屋が倒壊しても自身の命を守る術の周知や支援が今後必要と考えている。

以上のことから、多額の費用が必要となる耐震改修工事については、市民の持ち出し金額を少なくするため、市から事業者に補助金を支払い、市民は残りの額を支払えば足りることとなる、代理受領制度の実施を予定している。加えて、耐震化の普及啓発を進めるために無料耐震相談会の回数を年３回から４回にし、防災ベッド・耐震シェルターの設置費用に係る補助額の拡大を予定している。

※防災ベッド・耐震シェルター：地震により住宅が倒壊した場合でも、安全な空間が確保できるベッドやシェルターのこと。

【Ⅱ 楽しみについて】

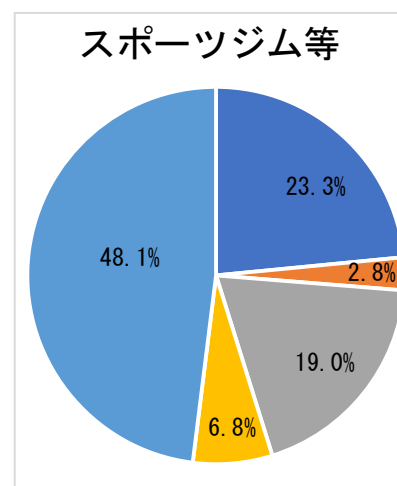
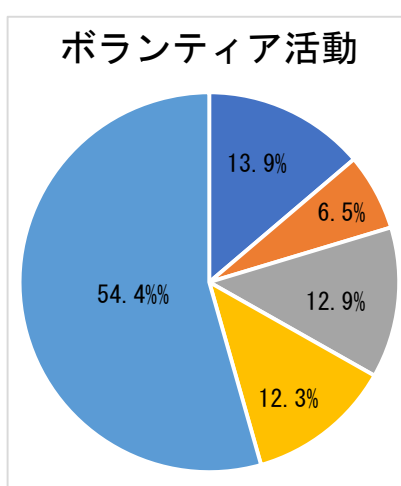
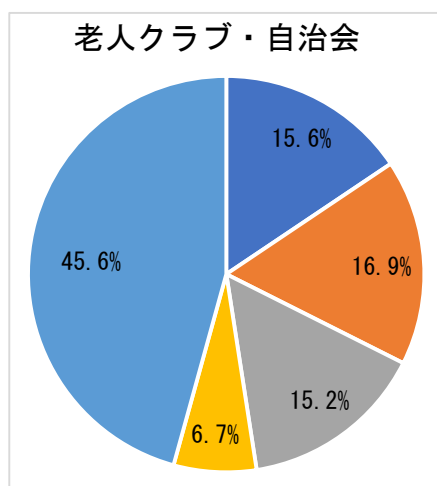
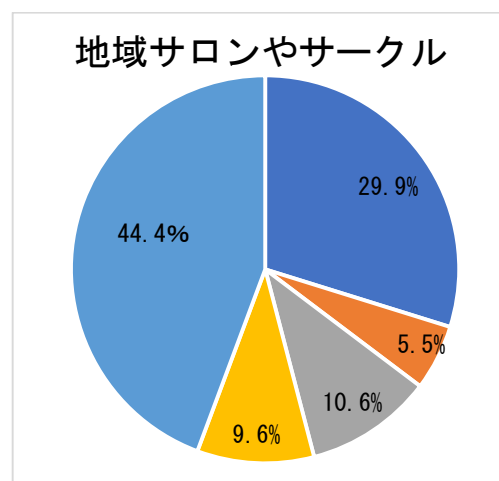
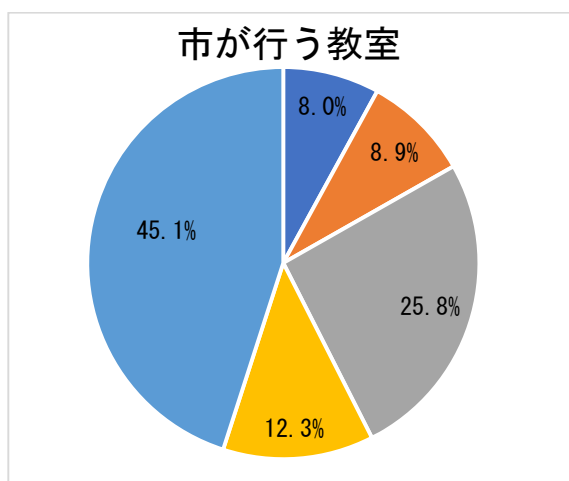
問5 楽しいこと、生きがいについて（複数回答可）



有効回答数	無回答数	総数
9,117	401	9,518

問6 活動への参加状況

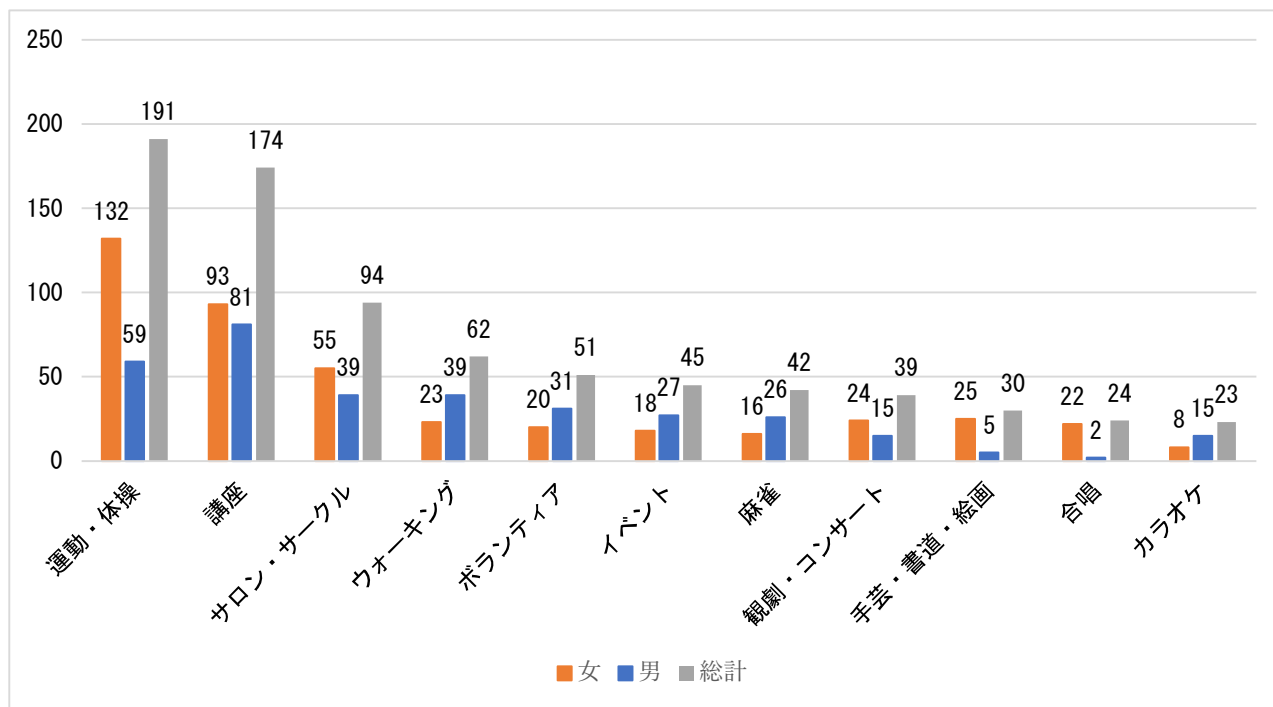
■ 月1回以上 ■ 年に数回 ■ 以前参加 ■ 方法不明 ■ 参加したくない



問7 どのような活動に参加したいか

《20人以上が希望している活動についてのグラフ》

回答人数 934 人（うち男性 421 人、女性 513 人）

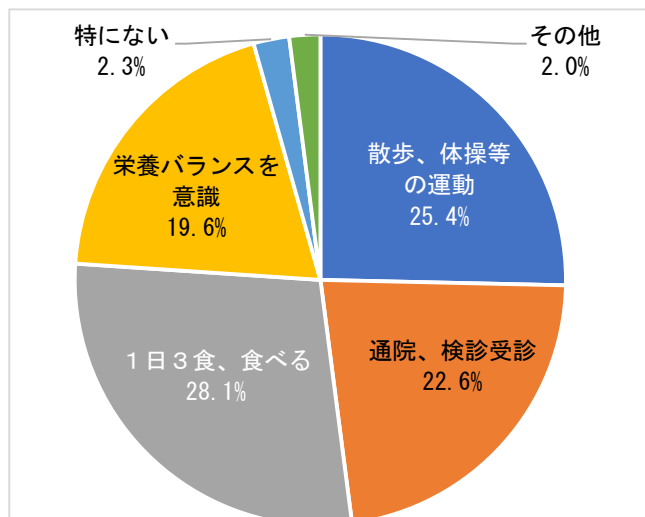


回答数	無回答数	総数
934	8,584	9,518

《上記の表以外に多かった意見》

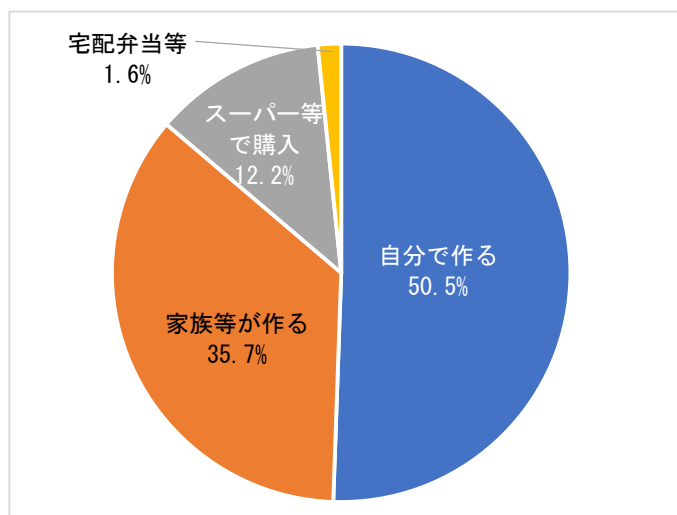
- ・ 移動手段についての意見 53 人
（移動手段がなく参加できない）
- ・ やりたい活動の前に「近くで」と記載した人 41 人
- ・ 自宅近くなら何でもよい 19 人
- ・ 講座の内訳
（パソコン・スマホ 31 人、料理 23 人、健康 20 人、歴史 14 人、文学 14 人）
- ・ ボランティアの内訳
（清掃等の美化活動 11 人、子ども食堂や見守等子どもに関わる活動 9 人）

問 8 健康のための取り組み（複数回答可）



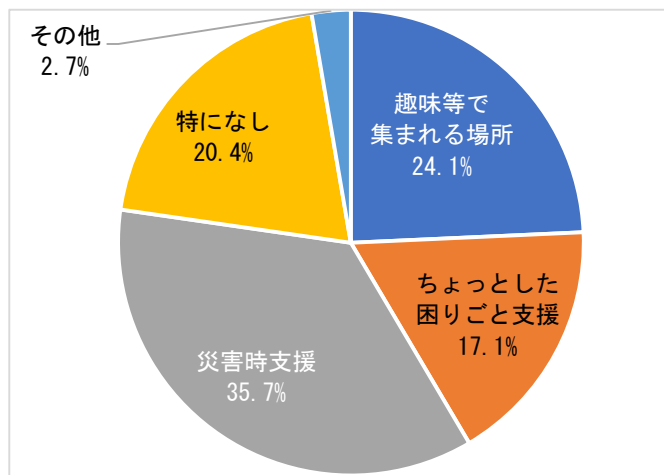
有効回答数	無回答数	総数
9,388	130	9,518

問 9 食事の準備について



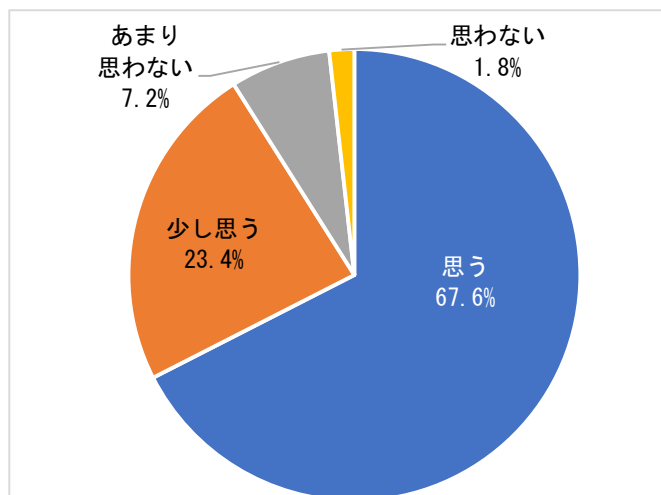
有効回答数	無回答数	総数
9,392	126	9,518

問 10 地域で元気で過ごすために必要なこと（複数回答可）



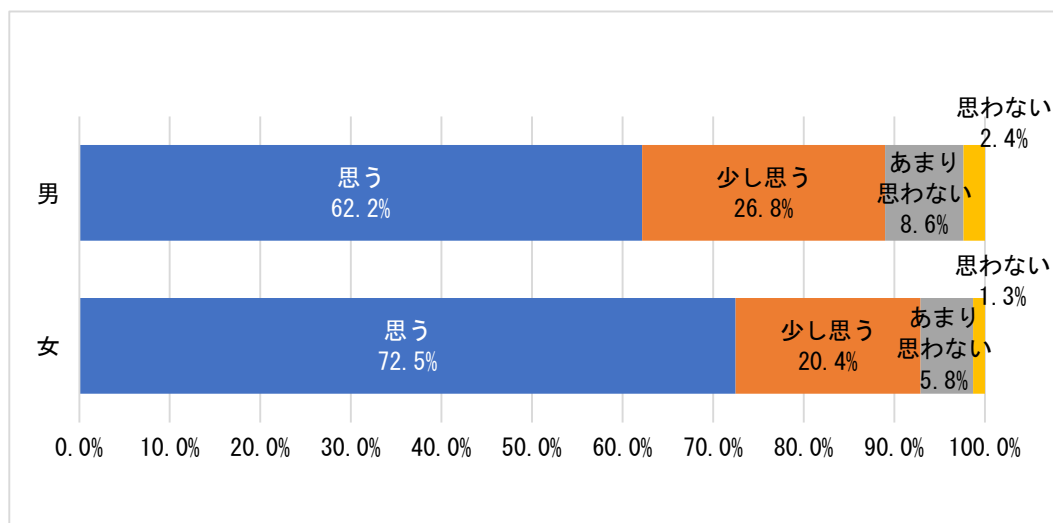
有効回答数	無回答数	総数
8,950	568	9,518

問 11 人とのかわりが必要か



有効回答数	無回答数	総数
9,387	131	9,518

男女別 問 11 人とのかわりが必要か

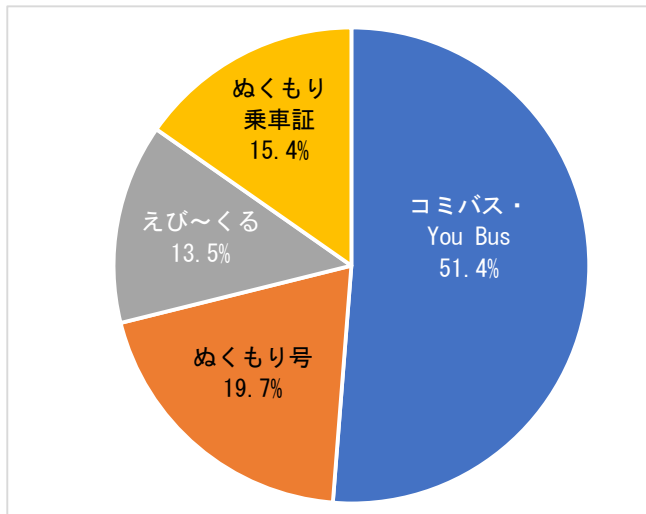


<Ⅱ 楽しみについての結果と今後の方針>

- 趣味や余暇活動を持つ人が多く、趣味等で集まれる場を求めていることや、運動・体操を行いたいという意見が多くいる。このため、現在の担い手養成講座を発展させ、短期集中的に講座を実施し、講座修了後には参加者のみで継続的に教室運営できるようサポートする教室の実施を検討する。
- 活動への参加意欲が薄い人も多いことから、複数人で集まる活動以外にも、個人で取り組むことができるように健康アプリの導入を検討する。歩数によるポイント付与や、脳トレになるゲームやパズル等の機能があるアプリについて、他市の導入事例等を調査し、検討を行う。
- 家の近所で活動することを望む人の受け皿となるよう、常設・非常設サロン（通いの場・集いの場）の増設を図る。また、他市の例を参考に、ドラッグストアに併設したサロンの開設等、民間企業の力を活用したサロンの開設について検討する。
- 外出するうえで、「体調・体力の不安」を持つ人が多いことから、現在実施している介護予防教室の内容を見直し、体力の維持向上を目指す。

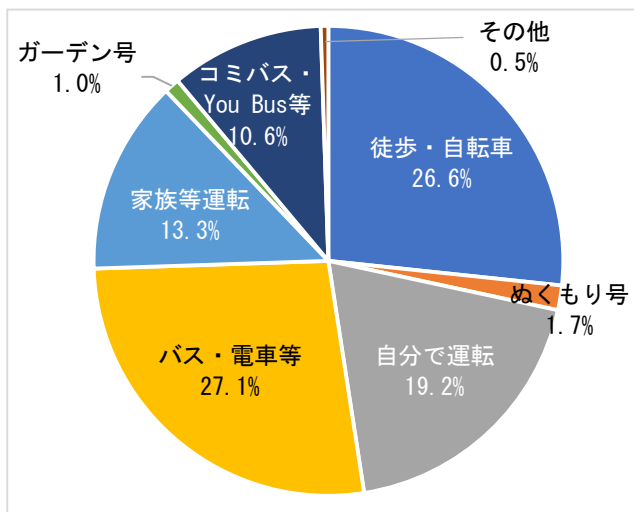
【Ⅲ 日頃の外出状況等について】

問 12 市が行う外出支援で知っているもの（複数回答可）



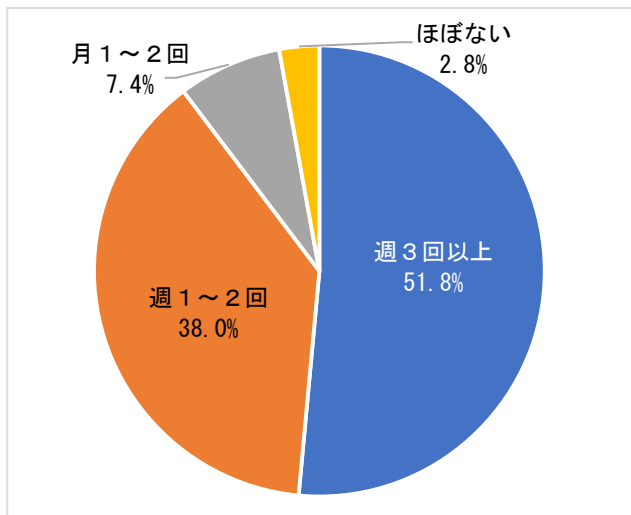
有効回答数	無回答数	総数
8,041	1,477	9,518

問 13 外出する際の交通手段（複数回答可）



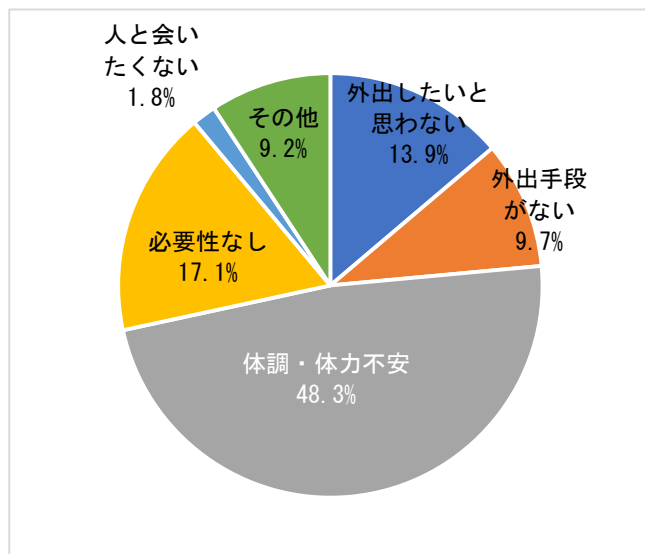
有効回答数	無回答数	総数
9,395	123	9,518

問 14 外出の頻度



有効回答数	無回答数	総数
9,391	127	9,518

問 15 外出をしない理由



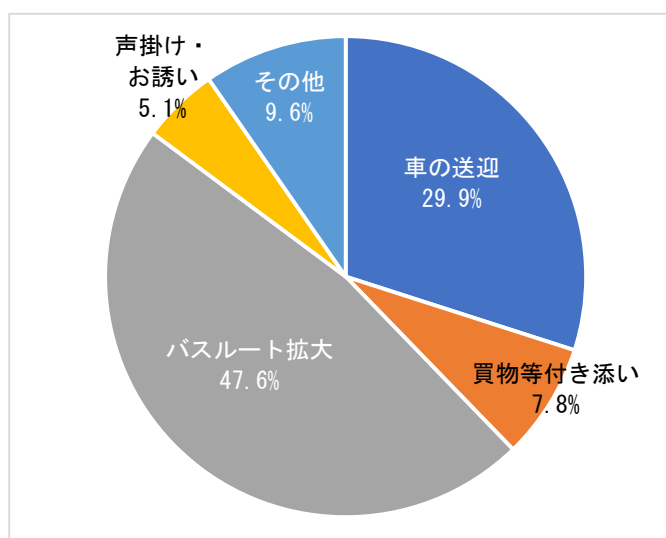
有効回答数	無回答数	総数
521	8,997	9,518

外出頻度別 外出しない理由

(単位：人)

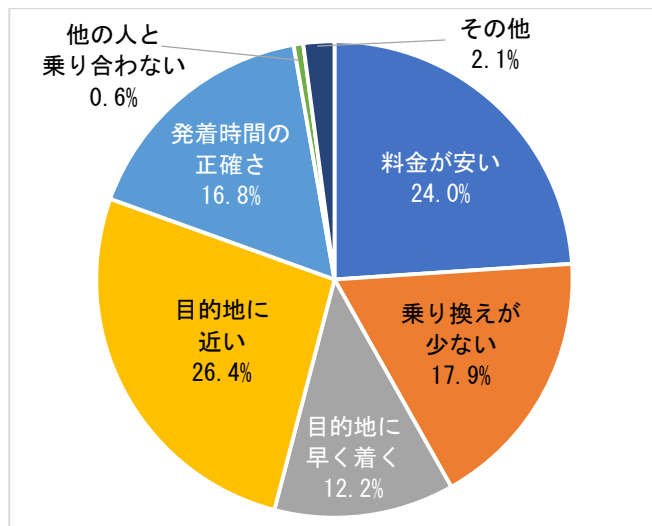
	外出したいと思わない	外出したいが手段がない	体調・体力が不安	外出の必要性なし	人と会いたくない	その他
ほぼない	46	19	138	60	4	24
月1～2回	11	12	44	9	3	4
週1～2回	19	16	83	22	2	12
週3回以上	10	10	35	10	2	18
重複回答	1	3	9	9	1	1
無回答	4	3	7	2	0	1
総計	91	64	316	112	12	60

問 16 外出のためのサポートとしてあると良いと思うもの（複数回答可）



有効回答数	無回答数	総数
6,377	3,141	9,518

問 17 公共交通機関利用時に重視すること（複数回答可）



有効回答数	無回答数	総数
9,434	84	9,518

＜Ⅲ 日頃の外出状況等についての結果と今後の方針＞

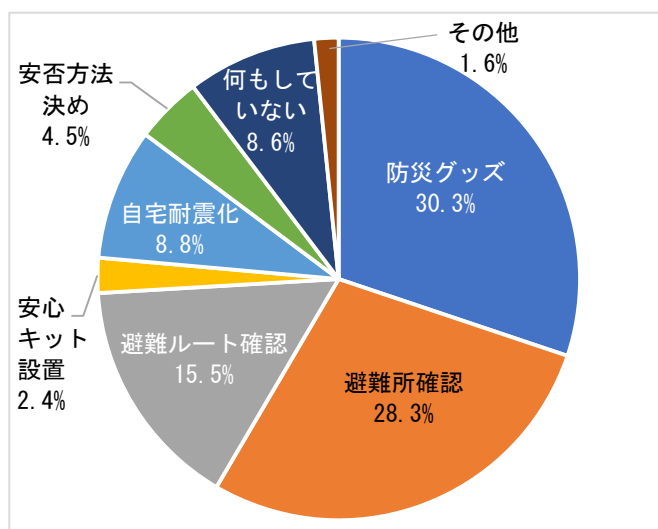
○ 公共交通機関利用時に重視することは、「目的地に近い」「料金が安い」「乗り換えが少ない」となっている。このためドアツードアに近い運行をタクシーより安価で利用できる「えび〜くる」について、事業継続できるよう、引き続き実証を進める。

また、えび〜くるの認知度については、口コミ等で向上しているとはいえ、まだ低い状況であるため、継続的な周知を実施する。

○ 外出時の支援については「バスルートの拡大」が約5割であり、コミュニティバスの本数の増便や近くに停留所を要望する意見が多いことから、所管部署に要望内容の情報提供を行う。

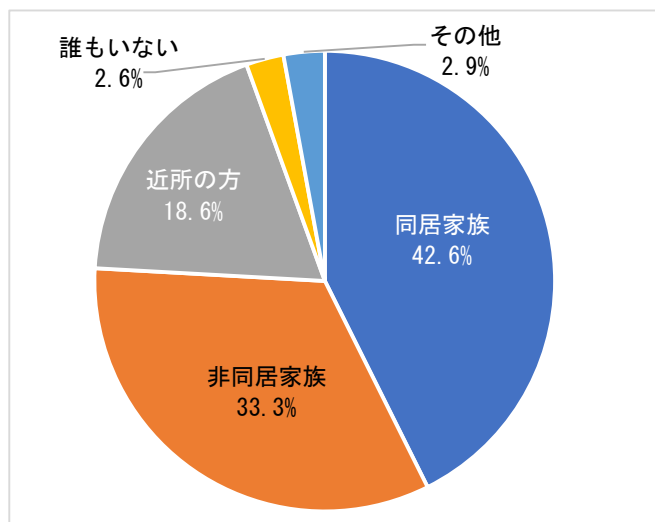
【Ⅳ 災害時の支援等について】

問 18 災害時の備えとして行っていること（複数回答可）



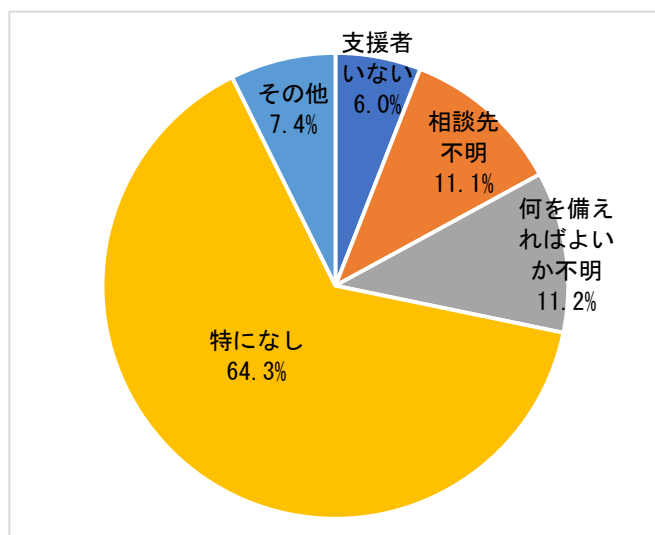
有効回答数	無回答数	総数
8,992	526	9,518

問 19 困った際に助けてくれる人（複数回答可）



有効回答数	無回答数	総数
9,276	242	9,518

問 20 困っていること・不安なこと（複数回答可）



有効回答数	無回答数	総数
8,524	994	9,518

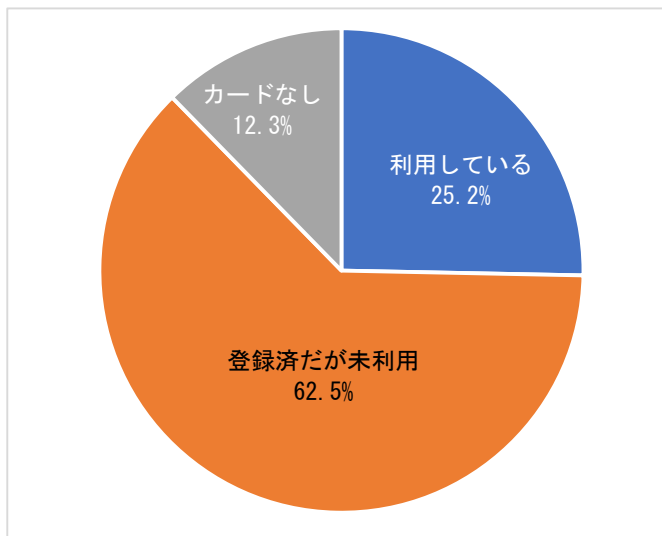
<Ⅳ 災害時の支援等についての結果と今後の方針>

- 困っていること・不安なことについて、備えとして「何を備えればよいかわからない」との意見が多い。危機管理課と協働して、防災物品リストを作成し、配布する等不安を解消するよう情報提供を行う。
- えびな安心キット※の設置率が低いので、積極的な周知を行う。

※えびな安心キット：自宅での緊急時に救急車を要請し、救急隊員が到着した際に、医療情報や緊急連絡先の情報をすぐに確認できるよう備え付けておくためのキット

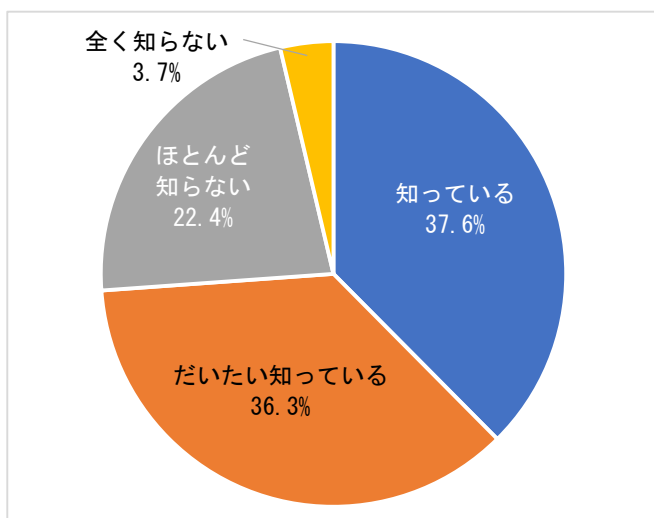
【Ⅴ その他について】

問 21 マイナンバーカードでの保険証利用状況



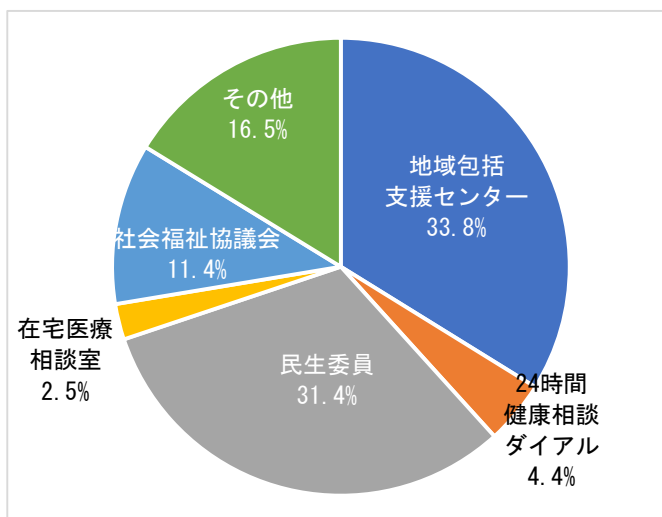
有効回答数	無回答数	総数
9,063	455	9,518

問 22 介護保険制度の認知度



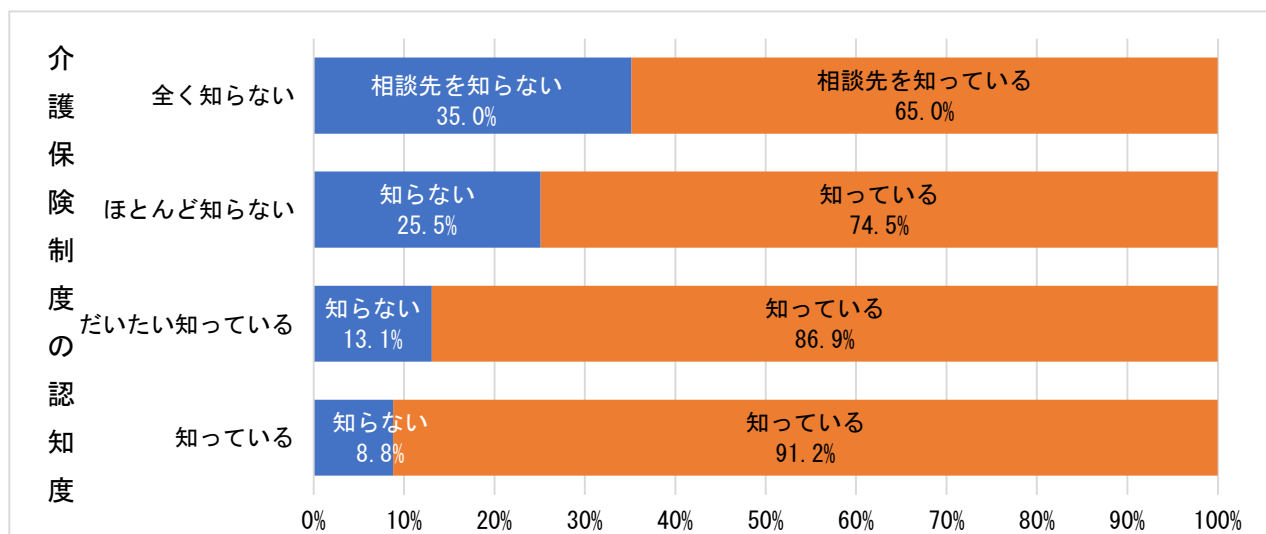
有効回答数	無回答数	総数
9,205	313	9,518

問 23 相談先として知っているもの（複数回答可）



有効回答数	無回答数	総数
7,959	1,559	9,518

介護保険制度の認知度別（問 22 介護保険制度の認知度と問 23 相談先の把握割合から）



<Ⅴ その他についての結果と今後の方針>

- マイナ保険証の認知度は約9割を占めているが、利用率が低いため、安心してマイナ保険証を使用して医療機関を受診いただけるよう、周知方法を検討していく。
- 困った時の相談先を知らない人が多く、必要な情報をわかりやすい形で届けることが急務であるため、相談先の電話番号を記載したマグネットの作成・配布を検討する。